

網走管内国際理解教育研究会 活動報告

平成21年度 研究主題

「自分と地球をつなぎ、未来を切り拓く児童・生徒の育成」・・・(全道に合わせる)

副題 ～世界を感じる地球の子どもをめざして～ (網走管内)

◎研究仮説

仮説1 実生活における身近な物事に目を向け、地球的視野で追求することによって、世界とのつながりを感じ、様々な問題を自分との関わりとしてとらえることができるだろう。

仮説2 言葉を使う活動を通し、互いを尊重する態度を育てることで、進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもが育つだろう。

◎研究の視点

視点1 身近な素材をもとにした、子どもと世界とのつながりが実感できる教材の工夫。
行動化を促す授業作り。

視点2 コミュニケーション能力の素地を育む指導法の工夫。
外国語活動を通した、世界とつながる意欲を高める教材の開発。

◎小学校外国語活動についての研究

・国際理解教育としての外国語活動

国際理解研究会としての押さえを明確にする(異文化理解・コミュニケーション・共生の心・自己の確立)。
実際のカリキュラムや授業プランの交流、検討。
英語の必要感をどう作っていくか。

・外国語活動情報交流

本研究会主催の「小学校外国語活動プロジェクトチーム」

(Foreign Language Activities of elementary school -Project team = FLA-P) を作り研究を進める。

(第1回 6月27日(土) 10時～12時 第2回 7月25日(土) 10時～12時)

(第3回 12月5日(土) 10時～12時 第4回 1月16日(土) 10時～12時)

○研究部、夏の学習会

7月25日 午後1時～3時 講演

サハリン国立総合大学経済東洋学大学 日本語講師 オリホヴィク 美香 氏

(サハリンの生活の様子やロシアの学校などについて、お話をうかがう。)

午前の外国語活動プロジェクトチームの会合にも出席して下さい、アドバイスを頂く。)

○その他の活動(研究部担当外を含む)

5月10日(日) 海外教育事情研修会(端野公民館)

5月16日(土) 在外教育施設派遣教員希望者講習会(北見南小学校)

10月9日～10日 北海道国際理解教育研究大会 札幌大会

第1分科会 提言 美幌町立美幌小学校 教諭 相馬 一之

○管内公開研究大会について

期日 : 平成21年9月4日(金) 場所 : 網走市立南小学校
主な内容 ・外国語活動に関するワークショップ (当研究会 研究部員およびFLA-Pメンバー)
・公開授業 5年1組 高田 佳奈 教諭(網走市立南小学校)

- * 買い物遊びを通し、普段はあまり関わりを持たない子同士でも、楽しんでコミュニケーションを図り活動していた。子どもたち同士、より良い関わりを持ってほしいという、授業者の思いや願いがわかる1時間だった。児童とALT、担任の関わりがよく見えた。
- * 小学校外国語活動については、各方面からの情報について昨年度とのニュアンスの違いなども考慮しながら、児童の活動重視で考えていきたい。(文字の取り扱い・低学年の活動・小中学校の連携など)

仮説1に関して

- ・ 買い物という誰もが行うことを授業の中に取り入れ、児童は外国語による活動にスムーズに入っていくことができた。
- ・ また、カナダやアメリカ・中国のチラシを用いることで、児童の目は世界に向けられた。どんな服装であるとか日本と同じ商品が売られているとか、そういった話し合いができ、文化への体験的な理解も図られた。
- ・ さらに「今日の活動がそのまま外国でも生かせる」ということは、子どもたちの意欲を高め「次は本物を買ってみたい」という感想にも結びついた。児童の心の中での小さな行動化の一步と押さえることができるだろう。

仮説2に関して

- ・ 互いを尊重し合えるクラスづくりをイメージしながら、授業の中で意図的にペア・グループの活動を取り入れることで、積極的に活動に参加することができた。普段あまり話し合うことのない子同士でもコミュニケーションをし、活動を楽しむことができたようである。
- ・ 児童は間違いを恐れず活動を楽しんでいた。児童が戸惑っている場面では、教師の適切なアドバイスが必要である。
- ・ ALT の声かけが、児童にとって励みになっていた。子ども同士の褒め合いや評価ができるとさらによい。

今年度の研究全般を通して(成果と課題)

- ・ 小学校外国語活動に関する研究が中心となった。その中で、意識して国際理解教育に結びつく授業づくりを進められた。
- ・ 「小学校外国語活動プロジェクトチーム」を立ち上げ、網走管内の関心のある教師間の交流を図ることができた。公開研究会ではワークショップを担当していただいた。
- ・ 授業者の選定は早めに行いたいが、小学校外国語活動に限定すれば、高学年担任という条件も重なり、前年度中に行うのは難しい。複数の候補者を考えておくなどの準備が必要である。
- ・ 複式学級・特別支援学級での活動についても、検討していく必要がある。
- ・ 外国語活動以外の部分では、十分な取り組みをする余裕がなかった。今後、開発教育的な部門と2部門のチームを作り研究をしていくか、当面外国語活動を重点にしていくか、方向性をはっきりとさせて研究を進めていく必要がある。現実的には後者の方向性が妥当と考えるが、最終的には新年度の研究部に任せる。
- ・ 学習会として講師を招き、お話を聞いた。毎年できるとは限らないが、チャンスがあればいろいろな方々

のお話を聞く機会を設けたい。